

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570809160		
法人名	伊藤電気株式会社		
事業所名	グループホーム大曲はなぞの 1号館		
所在地	秋田県大仙市大曲花園町25-28		
自己評価作成日	令和元年11月22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念として①家庭的で暖かい雰囲気の中での生活。②生きがいのある生活。③人間としての尊厳が守られる生活。④地域に溶け込んだホーム作りを目指します。1・2号館、それぞれの入居者様のこれからの生活を尊重し、馴染みの家事や得意なこと、興味のあることをこれからも継続し、穏やかに過ごされるよう支援させていただいている。また地域との繋がりがりも継続できており、保育園の園児との交流、ボランティアのお茶会、歌や踊りの会などの来訪も、入居者様の楽しみとなっている。地域に溶け込めるホーム作りを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いつも笑顔で迎えてくれ、忙しい時間帯であっても快く対応してくれる。本人に寄り添ってくれ、アットホーム。家族の心のケアがありがたい」等々、多くの家族から感謝されている。晴れ間を見計らって、散歩やドライブ等出来る限り戸外に出かけることを全スタッフが心掛けており、昨日は冬の貴重な晴れ間を利用して、日光浴を兼ね、10分位散歩したとのこと。家族からワラビやゼンマイ、タケノコ、近隣からジャガイモや食用菊、会長(代表者)からハタハタをいただいた時は、急遽献立を変更し、旬の味に舌鼓。「梵天」「恵比寿儀」がホームまで披露巡行に来てくれ、15人超の参加者が声高らかに、「梵天唄」を謳いあげてくれる。サービス担当者会議には、毎回全スタッフが参加している。全国花火競技大会「大曲の花火」がホームから堪能でき、炸裂音や音楽まで聞こえるとのこと。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和元年12月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、スタッフルームに理念を掲示している。日々の申し送りや月1回のカンファレンス、サービスの提供場面に理念が反映されるように努めている。	開設時に策定された理念であり、グループホームとしての基本的なあり方を反映させた分かりやすい内容である。増設された2号館もこの理念を引き継いでいる。理念は各玄関の見やすい位置に掲示されている他、スタッフルームへも掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する町内会に所属し、町内の昼食会に参加させて頂き、積極的に地域と交流できている。	男子42歳の厄祓いである「梵天」「恵比寿儀」がホームまで披露巡行に来てくれ、15人超の参加者が声高らかに、「梵天唄」を謳いあげてくれる。金谷町子ども樽みこしもホームまで来てくれる。町内会に参加しており、金谷町ふれあい昼食会に招待され、ゲーム等を楽しみ弁当に舌鼓。町内の新年祝賀会にはスタッフが交代で毎年参加し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症なんでも相談所を設置し地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、地域の方、以前入居していた入居者様の家族にも参加して頂いている。会議では率直な意見が聞かれ、それを受けて改善に取り組んでいる。	金谷町内及び隣接の花園町の元町内会長、行政、地域住民として以前の家族、家族代表が参加している。水害訓練で小学校へ避難したが、運営推進会議で小学校よりも標高が高い避難先や、各避難先の設備についてアドバイスいただけたとのこと。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者として、地域包括の職員より定期的に情報交換や相談を頂き、サービス向上に活かしている。	行政からは介護保険事務所と地域包括から隔年交代で運営推進会議に参加しており、入居希望者の紹介等、連携している。家族不在の利用者について、生活保護担当者との連絡調整が確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回内部研修を行い、身体拘束について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会長(代表者)とスタッフで構成された身体拘束適正化委員会が年4回、3か月毎に実施され、内容が全スタッフに周知されている。「身体拘束・行動制限に関する指針及びマニュアル」が整備され、スタッフが輪番で資料を作成し研修会を実施しており、事例検討も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回内部研修を行い職員で話し合い、ケアが精神的・身体的に苦痛にならないように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があったが、実際に制度を活用したことは無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に入居者様、家族の方と面談し、不安や疑問を解決したうえで契約している。改正があれば文章や口頭で説明をして、理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの見直し時期や面会時などに意見を頂いている。	数年前に無記名で家族に対するアンケート調査を実施した経緯があるも、訪問された際等に意見や要望、質問や相談を気兼ねなく直接表してもらえる関係作りがむしろ大切であることを実感している。家族が購入し持参してくれた衣類が、本人の好みでなかったようなので、本人と一緒に好みの物を購入して欲しい等々。「いつも笑顔で迎えてくれ、忙しい時間帯であっても快く対応してくれる。家族の心のケアありがたい」等々、多くの家族から感謝されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全職員で話し合う機会があり、意見・要望を話し合い反映されている。代表者も加わり、意見・感想を頂いている。また毎日申し送り意見があれば対応している。	定期的な個別ヒアリングは実施していないが、必要に応じ機会を設けては管理者が個別に面談しており、親の介護や子育ての事情等々、出来る限り要望に沿えるよう配慮している。代表者が職員会議等に参加することで、備品等の調達希望を直接伝えられることを可能としている。そのためか、館内は清潔で整理整頓が行き届き、備品も整備され、16年が経過したとは思えない程である。	
12		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や頑張り、実績を評価し、意欲を持って勤務できるよう努めている。築年数も経過しており、設備の不備、不具合の不都合には早目に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は各種研修に参加している。受講者には研修参加後に報告書を作成し、全職員に内容を伝え、共有する体制が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員はグループホーム協議会等に参加して、交流を深めており、サービスの質の向上に取り組んでいる。代表者は一部の会の役員として研修の企画、立案にも参加している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で可能な限り訴えや要望を聞き、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居開始までの相談で家族の気持ちを受け止めるようにしている。入居後も落ちつかれるまで連絡をとりあえる体制作りをしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内で生活を共にしているという関係を目指し実践している。入居者の思い・不安・喜び等を共感し、共に支えあえるような関係をつくっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の思いや意向を大切にしながら、家族と繋がっていることを認識できるように支援している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員はもちろん、家族の協力にて自宅周辺への外出、馴染みの美容院へ行き、共に過ごす時間があるよう支援している。訪問理容の利用もしている。	孫の送迎で馴染みの美容院へ出かけ、帰りに買い物を楽しむとのこと。馴染みの床屋が訪問に来てくれる事例も確認できた。殆どの利用者が地元の方で、散歩やドライブの外出の際に住民と挨拶を交わしたり、話込んだり。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	入居者同士の関係や、一人ひとりの思いを把握し、 必要時は職員も見守りや仲介することで、孤立しな いよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じ、居宅のケアマネージャー との連絡もと、相談・情報提供をし付き合いを続け ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者様の言動や行動の変化などから、思いや意 向を確認するようにしている。把握が困難な場合 は、これまでの生活歴を念頭におき、検討・実践し ている。	農家出身の方が多く、草取りや花壇作業で土に触 れることが出来るよう配慮している。ホームのあち こちに表示された文字は、習字の得意な方にあて てお願いしたとのこと。かるたの動作が遅い方 には得意な読み手をお願いしており、本人から希望 がなくても好きなこと得意なことを掘り起こし、ホ ームでの個々の役割を發揮できるように配慮して いる。混乱を避けるため、洗濯物は、あてて自分 の物だけを置くようにしている。食器拭きは皆さん 大好きとのこと。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等 の把握に努めている	面接時、本人や家族からバックアセスメントや聞き 取りをしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居者様が日課にしていたことを継続できるように 努めている。馴染みの作業も手伝って頂いている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	利用開始時や面会時等の機会に、家族から聞き取 りを行ったうえ、利用者本位の視点から話し合い、 得られた気づきや、本人・家族からの意見・要望を 反映した介護計画を作成している。	全スタッフの思いや意見、気づきを計画に反映させ るよう、毎月開催されるサービス担当者会議には、 毎回全スタッフが参加している。参加できない家族 へは前もって連絡し、家族の思いを反映させるよう 取り組んでいる。部屋毎の担当制を導入している が、6ヶ月毎に交代することでスタッフが全利用者 を把握し対応できるよう工夫している。家族に分か るよう専門用語を出来るだけ使用せずに、詳細でな おかつ分かりやすい計画である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送り時に情報の交換を行い、改善すべき点について話し合いをしている。日々の行動・言動・ケアプランの内容も記録に残すようにしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花壇作業に取り組んだり、地域の行事に参加するなどしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりがこれまでのかかりつけ医で継続できるよう支援している。協力病院からの、往診・検診もあり、必要に応じて入居者一人ひとりが相談できる体制ができています。	協力医療機関である内科病院が夜でも対応してくれ心強い。協力歯科病院が年1回定期健診に来訪し口腔アセスメントにより具体的なアドバイスをいただいている。往診や緊急時を考慮し、家族がかかりつけ医を変更する事例もある。内服薬の変更時等、薬局とはいつでも相談できる態勢にある。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約をし、月2回の定期訪問に加え、状態変化時の相談等を24時間体制にて対応できるようにしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者に情報提供をし、入居者様が不安なく治療を受け、早期退院できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応については事例を経験している。その経験を活かし、入居者様が安心してできるような、重度化や終末期にむけた支援体制を構築している。	「医療連携体制の概要書」の中に「看取りに関する指針」が制定され、入居時に説明し署名を得ている。ホームとしては、出来る限りホームで対応することを伝えているが、家族や主治医と十分に相談した上で判断している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署へ依頼し、協力の下、救急救命講習をお願いするよう努めている。マニュアルの作成や、連絡網の整備、勤務表作成時毎日当番制にて、緊急時に出動できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練と、年1回水害訓練を、近隣住民にも協力をあおいで実施している。以前、近隣で火事があり、近隣住民や、運営推進会議に出席してくれた方も駆けつけてくれた。	前回の水害後、市の防災担当より、年に1回は水害訓練を実施するよう指導されており、結果を市に報告している。水害訓練で避難場所である小学校へ避難する訓練を体験している。2年前に2軒となりの民家火災を経験しており、幸い延焼は免れたものの、この経験を機に、近隣を火元想定した避難訓練をも実施している。防災に詳しい運営推進会議の委員から様々なアドバイスを受けている。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に守秘義務の徹底を図り、入居者様のプライバシー保持に努めている。職員は入居者様一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、声かけ等にも留意している。	各場面や時々で言葉を選び、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。トイレ誘導の際は他の利用者に悟られないよう工夫している。入浴や排泄時はカーテンの使用に努めている。個人情報の漏洩防止の一環としてパソコンにパスワードを設定している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で、食べたいもの・行きたい所等の自己決定できるよう話しかけをしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に考慮しながら、したいことを把握し、入居者様が主体となって暮らせるよう、個別支援に努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望で、洋服選びを一緒に行っている。外出時や通院時など、事前に知らせておく事で、身だしなみを整える事もできている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立を作り、バランスの摂れた食事を提供している。誕生日には食べたい物を聞き行事に合わせて季節を味わってもらっている。片付けは声かけでやって頂いている。	皮むき、野菜切り、米とぎ、盛り付け等々利用者が参加している。いものこ汁(芋煮会)での定番はおにぎり。家族からワラビやゼンマイ、タケノコ、近隣からジャガイモや食用菊、会長からハタハタ、いただいた時は急遽献立を変更し、旬を味わっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの状態を把握した、必要とされる分量を提供している。病気にあわせ、低糖質の食事を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や能力に応じた口腔ケアをしている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレで気持ち良く排泄できるように支援している。	転倒により寝たきりとなった方が、マッサージとリハビリで立ち上がりが可能となり、オムツから布パンツへの自立支援の事例を有する。スタッフの気づきとアイデアで、尿取りパッドを活用することで、リハビリパンツを布パンツに変更できたとのこと。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、飲食物の工夫や体操を取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活習慣に合わせてながら週2回の入浴日を設けている。入浴前には血圧や熱を測り体調チェックを行い、健康状態を確認してから入浴を行っている。	体調により入浴できない場合は、全身清拭も実施している。入浴チェック表を活用することで、いつ誰が入浴しているかを共有し、午前10:00頃より入浴を開始しているが、週に2回は入浴できるよう配慮している。入浴はスタッフと1対1で話せる貴重なひとときである。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の体調にあわせて、休憩や睡眠ができるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬についても理解し、内服後の状態についても記録している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、入居者様の好みや能力に応じた活動ができるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候をみて、町内の散歩や花壇の作業等、希望に応じて戸外に出掛けられるよう支援している。家族からの協力で、外出や外泊もできている。	晴れ間を見計らって、散歩やドライブ等、出来る限り戸外に出かけることを、全スタッフが心掛けており、臨機応変な判断を可能としている。角館武家屋敷、仙南の道の駅雁の里、姫神公園、農業科学博物館等々にドライブに出かけている。スーパーマーケットまで買い物が出てら出かけたり、体調に合わせて、雄物川の土手までは20分の散歩コースを楽しんだり。昨日は冬の貴重な晴れ間を利用して、日光浴を兼ね、10分位散歩したとのこと。利用者の自宅周辺をドライブし、自宅をのぞいたり、見慣れた景色を楽しむこともあり、先日は散歩途中に、つるし柿について近隣住民と会話を楽しんだとのこと。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使用をしてる方はいらっしゃらない。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、できる限り電話のやり取りができるように支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は自室の延長のように安らげ、心地よく過ごせる造りになっている。室内は段差のない構造、窓は二重サッシで落ちついた色彩のカーテンがかけられ、不快の音やいい匂いは感じられない。	全国花火競技大会「大曲の花火」がホームから堪能でき、炸裂音や音楽まで聞こえるとのこと。スタッフの環境整備係が居心地よく過ごせるよう対応しており、館内は清潔で整理整頓が行き届き、備品も整備され、16年が経過したとは思えない程である。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールのソファで過ごしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で飾っていたり使っていたものを持ってきて、自宅にいた時とおなじように、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	衣類タンスとベッドが備え付け。テレビを持ち込んでいる方も確認できたが、現在居室で観ることはなくみんなとホールで過ごしているとのこと。自宅で使用していた籐の家具を持ち込んでいる方も。お孫さんに囲まれた微笑ましい写真が印象的である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所に手摺を設置しており、安全に生活できるように配慮している。		